

令和8年1月23日

世田谷区立太子堂小学校
校長 廣瀬 維謙 様

世田谷区立太子堂小学校
学校関係者評価委員会
委員長 並 木 正

令和7年度 学校関係者評価委員会の報告書

学校関係者評価とは、保護者、地域住民などの学校関係者により構成された学校関係者評価委員会が行う評価のことです。太子堂小学校の学校関係者評価委員会は、次のメンバーで構成されています。

委員長	並木 正	聖路加国際大学客員教授（学識経験者）
委員	杉山 美以子	学校支援コーディネーター（元世田谷区小P連会長）
委員	山田 善久	地域住民（卒業生）
委員	小泉 千春	元PTA役員（保護者）
委員	岩崎 百恵	前PTA役員（保護者）

以下に、太子堂小学校の学校運営や教育活動についての関係者アンケート調査結果、教職員による自己評価の結果、学校関係者評価委員会での意見交換、及びそれらを踏まえた改善方策をもとに評価した結果を報告します。

学校生活は円滑に進んでいます。学校行事もすべて実施されています。スポーツ祭や音楽会も実施され、子どもの活発な活動ができるようになってきました。インフルエンザによる学級閉鎖など油断はできない状況にあります。1人1台のタブレットが配布されて、その活用が進んできました。また、学校が実施する教育活動についても地域、保護者への説明責任を果たすとともに協働する必要があることが学習指導要領で示されており、社会に開かれた教育課程と言われています。現在の学習指導要領では、主体的な学習への取り組みが重視されており、自ら学ぶ児童をどう育成するかがタブレットの活用も含めて学校の課題となっています。タブレットを家庭学習や調べ学習、学習のまとめ等の活用できる場面で使うとするのが、適切ではないでしょうか。タブレットに児童が慣れるに従い、活用の場面も増えると考えますが、タブレットに通信機能もあることから課題も生じてきているように思います。

また、子どもを囲む状況も大きく変化しています。子ども家庭庁が開設され、「子ども基本法」が制定されています。最近のニュースでは教員による児童の盗撮の問題や、高校で生徒間の暴力行為をSNS上にアップするなどの事件が問題となっており、教育者の資質が問われているように思います。大人の社会の反映かもしれませんが、新聞では、児童による児童への加害行為を取り上げた記事もあり、このようなことは絶対にあってはなりません。

このような社会の中で、学校は児童の教育の充実を目指して、家庭、地域と一体となって教育を進める必要があります。教育には不易と流行があると言われていますが、生徒の学ぶ意欲を高めることは不易ですし、タブレットの活用も流行から不易へと変わっていくと思われます。先生方の児童への指導の方策は流行の部分もあるかと思いますが、児童との関係作りは信頼関係を基本にした教育の不易と言えるでしょう。学校関係者評価委員会では、学校の課題解決に向けて、少しでも役に立つものになればという思いで、アンケートの分析を行いました。

1 学校関係者評価アンケートの回収率について

	児 童	保 護 者	地 域
配布数	1 4 4	3 3 8	3 0
回収数	1 3 1	2 4 6	1 6
回収率	9 0 . 0 %	7 2 . 8 %	6 0 . 0 %

今回のアンケート調査では、保護者からの回収率は昨年と比べておよそ12%上昇しました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

2 アンケート調査の結果から

今回は児童と保護者の認識の差について集計結果から調べました。

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
学1	児童	85.5	80.0	77.1	65.7	81	82.7
	保護者	86.6	79.4	71.4	63.6	81.6	87.9
	差	-1.1	0.6	5.7	2.1	-0.6	-5.2
学3	児童	76.5	48.3	66.2	68.6	75.9	82.7
	保護者	56.7	52.9	58.9	52.3	75.5	69.7
	差	19.8	-4.6	7.3	16.3	0.4	13
学5	児童	85.3	68.3	86.5	82.9	87.4	82.7
	保護者	80	64.7	44.6	31.9	69.4	57.5
	差	5.3	3.6	41.9	51.0	18.0	25.2
生1	児童	91.1	70	82.4	85.7	76.0	76.9
	保護者	93.4	91.1	71.5	56.8	73.5	81.9
	差	-2.3	-21.1	10.9	28.9	2.5	-5
生3	児童	82.3	76.7	85.3	74.3	74.7	73.1
	保護者	90.0	79.4	76.8	61.4	69.4	81.8
	差	-7.7	-2.7	8.5	12.9	5.3	-8.7
健2	児童	76.4	56.6	74.3	65.7	63.2	63.5
	保護者	83.4	85.3	80.3	72.7	85.8	87.9
	差	-7.0	-28.7	-6.0	-7.0	-22.6	-24.4
意1	児童	97.0	86.7	85.2	88.5	86.1	86.5
	保護者	86.7	82.3	76.8	70.4	83.7	90.9
	差	10.3	4.4	8.4	18.1	2.4	-4.4
全3	児童	88.2	58.3	64.9	68.6	74.7	73.1
	保護者	66.6	70.6	55.3	50.0	69.4	81.8
	差	21.6	-12.3	9.6	18.6	5.3	-8.7
全4	児童	82.3	88.3	82.5	87.2	83.6	80.8
	保護者	46.7	64.7	48.2	27.3	51.1	30.3
	差	35.6	23.6	34.3	59.9	32.5	50.5

児童の欄の数字はAとBに記入した児童の合計の%

保護者の欄はAとBに記入した保護者の合計%

差は児童の%から保護者の%を引いたもの

- 20%を超える差がある。
- 10%を超える差がある。

学1 学びの意識

児：べんきょうのめあてをかくにんしている。わたしは学習の目当てが何か理解して授業に参加している。

保：本校は学習の目当てを明確にした授業を行っている。

学3 考える力

児：自分のかんがえをノートに書いたり発表したりしている。わたしは、自分の考えを持ち、ノートやタブレットに振り返りをまとめている。

保：本校は、児童の考えがもてるように、ノートやタブレットに振り返りなどをまとめさせている。

学5 学習理解

児：「わかった」「できるようになった」と思うときがある。わたしは、授業中「わかった。」「できるようになった。」と思う時がある。

保：本校は、授業において、「わかる」「できる」につながる指導の工夫をしている。

生1 規範意識

児：学校のきまりをまもっている。わたしは、学校のきまりを守って行動している。

保：本校は、子どもたちが学校のきまりを守って行動している。

生3 思いやり

児：思いやりをもって生活している。わたしは、友達や下学年に、思いやりをもって行動している。

保：本校は、子どもたちが友達や下学年に、思いやりをもって行動している。

健2 生活習慣

児：「早ね、早おき、朝ごはん」を心がけている。わたしは、「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけている。

保：本校は、「早寝・早起き・朝ごはん」などの健康推進に進んで取り組んでいる。

意1 学校生活の楽しさ

児：学校生活は楽しい。わたしは、学校生活が楽しいと感じる。

保：本校は子どもたちにとって楽しい環境である。

全3 相談環境

児：先生たちに話やそうだんをすることができる。わたしは、先生たちに相談できる。

保：本校の先生たちは、子どもたちにとって相談しやすいと思う。

全4 ICTモラル

児：タブレットのルールをまもってつかっている。わたしは、タブレットのルールを守って使っている。

保：本校の子どもたちは、タブレットのルールを守って使っている。

3 アンケートの児童と保護者の認識の差の集計から

このアンケートの結果を元にした、上図の集計結果からどのようなことが分かるか見ていきます。

学1の学びの意識については、どの学年もA、Bの合計は80%前後まで到達して、しかも保護者の意識も児童とかけ離れていません。つまり、学習の目当てについては、毎時間、先生がこの時間はなにを学ぶのか、何ができるようになるのかを示していて、それに従って児童も学んでいます。保護者の方々も何を学んでいるか理解していると言えるでしょう。

学3の考える力については、ノートやタブレットに自分の考えや振り返りをまとめているかどうかというのですが、学年によって児童と保護者で差が出ている学年はあるものの概ね良好と言えるのではないのでしょうか。「自分の考えをまとめている」というところが保護者から見えにくいのかもかもしれません。

学5の学習理解については、「わかった」「できるようになった」と思う時があるかを聞いているのですが、2年生以外がすべて80%を超えているのに、2年生がちょっと低いのが気になります。保護者との差では、4年生が大きく差ができています。児童は「わかった」「できるようになった」と思っているのに、保護者は「分かっていない」「できるようになっていない」と思う方が多い傾向にあります。

生1の規範意識では、学校のきまりを守って生活しているかどうかを聞いています。概ね良好と言えますと思いますが、児童と保護者の差がマイナスになっているのは児童が思っているより保護者の方がもっと良く思っているので、お子様の様子を良くみていただきたいと思います。

生3の思いやりでは、同学年の友達や下学年に児童に思いやりを持って接しているかを聞いていますが、これも70%以上の児童が思いやりをもって接していると答えているので、概ね良好と言えます。

健2の生活習慣では、「早寝・早起き：朝ご飯」に代表されるような規則正しい生活をしているか聞くものですが、マイナスになっている学年が3学年あり、それも20%を超えていますので、保護者の方々が思っているほど、児童は規則正しい生活をしていないと自覚していることがうかがえます。この項目が学年が上がるに従い、下がっていくのが、発達段階から考えて普通のことですが、4年、5年、6年の児童の自己評価がほぼ同じ割合になっています。

意1の学校生活の楽しさは、どの学年も85%以上の児童が楽しいと答えており、大変良いことだと思います。学校が楽しいことが不登校にならない大きな要因であると考えます。1年生の97%がAかBを付けているのは素晴らしいことだと思います。保護者の方々と差もあまり開かず、保護者の方々へもお子様を通して、学校の楽しさが伝わっていることが良く分かります。

全3の相談環境では、児童から見て先生方に相談しやすいかどうか聞いています。ここでは1年生の差が大きくなっていますが、1年生の発達段階から考えると保護者の方々はもっと優しく接してほしいと思っているのかもしれませんが、他の学年は概ね良好と言えるでしょう。

全4のICTモラルでは、児童と保護者の間に大きな差が見られます。これは学校として今後取り組みをする必要があると考えます。児童と保護者の差が20%～50%も開くということは、児童からすれば、学校で先生の言いつけ通りタブレットを使っているけれど、家で保護者から見ると野放図にタブレットを使っているように見えるということだろうと思います。高学年になればタブレットによる宿題も出るでしょうが、ネットサーフィンで遊んでしまうこともあるかもしれません。タブレットを学びに使うことを徹底する必要があるように思います。これは学校から児童を指導し、保護者の方々からも指導をしていただいて、学校と家庭とで同じ歩調で取り組むことが一番かと思います。

4 まとめ

今回の報告書は、今まで行われて来たアンケート結果から課題を見いだすのではなく、アンケートの集計の仕方をちょっと変えて、新たな視点で集計してみました。そのことで、タブレットの活用について課題が浮かび上がったように思います。タブレットについては、都内でも先進的な取り組みをしている小学校ではAIを活用しているところもあります。まずは、タブレットや携帯に振り回されず、学びの道具として活用する姿勢を持たせることが一番大事なことかと考えます。太子堂小学校での今後の取り組みに役立てていただけることを願ってまとめといたします。